

# 子どものかわいさに出会うオンラインセミナー

## 質問と回答

### 質問 1

---

園長をしておりますが、職員にも聞いてほしいお話しでした。

個人的なことで特殊なケースなのですが、5歳の孫が生後6ヶ月頃からの難病のために、言葉も話せず、立つことも歩くことも、食事も口から食べることができません。発達すると信じたいところなのですが、孫も発達していくのでしょうか？ 祖父としてどんな関わりができるのでしょうか？ 保育園では皆さんに可愛がっていただいているようです。療育にも通っています。

▶お孫さん、もちろん発達していきます。「できること」が増えるかどうかではなく、心の世界が豊かになることが発達なので、色々な体験を保障したいですね。暑さ・寒さ・暖かさ・涼しさ、様々な臭いや香り。鳥のさえずり、犬や猫のなき声、保育士の優しいわらべ歌や声掛け。仲間の声や体温。そして揺れたりぬれたり触れられたり、感じる心地良さ。しゃべれなくても感じている、外に出せなくても期待し心を向ける世界は広がっています。体調第一ではありますが、旅行だってスキーだってあります。私が理事をしている法人の児童発達支援センターは医ケア児も重心児も海水浴やスキー合宿を楽しんでいます。医師をはじめとした医療スタッフが同行するので、きょうだい児も参加して仲良くなっています。

祖父母は、親をまずは支えてください。孫と遊ぶ、孫を預かる等をとおして、親が一息つくこと、自分たちの好きなことを楽しむ時間と、祖父母がわが子を可愛いと思っていることを実感することが、何よりの子ども孝行だと思います。

### 質問 2

---

学童で3年生の特支の外国籍児童が、キレやすくて挑発、悪口、暴力、走る等他害行為が多く、他児童たちへ被害甚大ですが学童に退所措置がありません。夏休みは特支とそれに近い子たちが半数を超え、非常に荒れました。何か今後のアドバイスはないでしょうか。

▶本人が学校生活でしんどい思いをしているかもしれませんね。でも、学校との連携は難しいことが多いのも現実です。子どもさんが特支を利用しているのであれば、「児童発達支援

センター」に学童保育所を見に来てもらうことも制度的にはできます。

でも学童保育でできることをまずは考えてみてください。衝動性と攻撃性が強いということは、体を使う活動が合っているかもしれません。みんながいると神経が昂るのであれば、まずは要支援児向けの「空間」「部屋」を用意することもあります。攻撃性を発揮する対象を人ではなく物にするのも可能ですよね。何にしても本人の好きなこと、得意なことを共に楽しむことがないと心は落ち着きにくくなります。職員で子どもの「好きなこと」「興味・関心」を10個書き出したうえで、それをステキに演出してみましよう。

以前、中学生になったら失禁するとともに壁に激突するようになった子について、私はせっかく壁にぶつかるならラグビーのタックル演出をして、壁に五郎丸さんのポスターをはることに、外でラグビーのタックル練習することを提案しました。職員がその子のことを好きになること、その子と遊ぶことを楽しまないと、子どもの心は落ち着きませんよね。体制がシビアな中なので大変でしょうが、自分たちだけで悩まずに関係機関に「ヘルプミー」しましょう。

\*セミナー時間内にお答えできなかったご質問について掲載しています